

小学生の勤労観・職業観を育む研究

—学級活動「係活動」の指導プログラム等の開発・工夫及び指導実践を通して—

To foster the elementary school students' career image and work values: Program development and educational practice for engagement activities in homerooms

古川 雅文	中園 大三郎	松田 修	武原 市郎	金井 佳孝
MASAHUMI Kogawa	DAISABURO Nakazono	OSAMU Matuda	ITIRO Takehara	YOSITAKA Kamai
保科 智子	河本 企世子	南原文恵	三上 純子	石川 恵理
TOMOKO Hosina	KIYOKO Kawamoto	HUMIE Minamihara	JUNKO Mikami	ERI Isikawa
中川 仁史	太田 真由美	遠藤 絹代	角野 真介	宇治丸 幸
HITOSI Nakagawa	MAYUMI Ota	KINUYO Endou	SINSUKE Kadono	miyuki Ujimarū
中西 基子	栢田 忠男	大坪 隆	中園 貴之	
MOTOKO Nakanisi	TADAO Masuda	TAKASI Otubo	TAKAYUKI Nakazono	

今日、学校から職業への移行プロセスに問題を抱える若者が増え、社会問題ともなっている。したがって、一人一人が主体的に自己の進路を選択・決定できる能力やしっかりとした勤労観・職業観を身につけるキャリア教育の推進が今後の学習指導要領に付記され、小・中・高等学校を通じて、組織的・系統的に計画していくことが示された。

この点、義務教育の前期段階に当たる小学校においては、キャリア教育を行っている教員はいるが、概してキャリア教育に取り組むことへの意識はあまり浸透していなく、その実践例は少ないのが現状である。したがって小学校において勤労観・職業観の育成を図ることを教育課程に位置付け、意図的に計画的・系統的に指導することはこれからの課題であり、そのための有効な指導プログラム開発・工夫が待たれるところである。

キーワード：小学校の係活動、係活動指導プログラム等の開発・工夫、キャリア教育、勤労観・職業観の育成

Key words : engagement activities, program development and education practice, career education

1. 本研究の目的と仮説

本研究では、まず、小学生を対象にして係活動の実施状況調査を実施し、係活動の状況を把握すると共に、自らの適性や将来設計・選択等、自己の生き方を考え、生かす能力を養えるキャリア教育の視点から課題等を明らかにする。

また、今次の小学校学習指導要領特別活動の改訂で新しく付記された特別活動の内容である「学級活動の内容(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 エ清掃などの当番活動等の役割と働く事の意義の理解」を踏まえ、小学校での係活動を研究対象に取り上げ、児童の勤労観・職業観を育むための係活動の指導プログラム等を開発・工夫し、その有効性を児童の意識調査より実証する。

さらに、開発・工夫した指導プログラム等を用いた指導を行い、そこでの児童の「勤労観・職業観」の変容を意識調査で明らかにし、今後の研究や実践に資する。

研究仮説は次の通りである。

- 仮説(1) 小学生対象の意識調査によって、係活動の実施状況の諸課題等を明らかにすることができるであろう。
- 仮説(2) キャリア教育の視点をとり入れた係活動の指導プログラム等を開発・工夫し、それを用いた指導と児童の意識調査により、開発したプログラム等の有効性や児童の勤労観・職業観に関わる意識・実践態度の変容を究明することができるであろう。
- 仮説(3) 係活動の重点指導事項が児童の勤労観・職業観に及ぼす影響を児童の意識調査によって、究明することができるであろう。

2. 研究計画

(1) 研究構想

- 研究1 係活動の理論的・実践的な考察を行う。
- 研究2 小学校における「職業観・勤労観」の育成を図る係活動の指導プログラム等を開発・工夫する。
- 研究3 小学生対象に係活動の実施状況の調査を実施し、係活動の現状を把握するとともにキャリア教育の視点から考察する。
- 研究4 研究2で開発・工夫した係活動の指導プログラム等を用いて指導を行い、その前後の児童の意識調査から、児童の変容及び指導プログラム等の有効性を究明する。
- 研究5 係活動の重点指導事項が児童の勤労観・職業観に及ぼす影響について、児童対象の意識調査から究明する。

(2) 共同研究組織

- 大阪市立8小学校 13学級 360名(男子172名、女子188名)

比較学級	学 年		男 子	女 子	小 計	合計(人)	
重点指導学級	低学年	1	13	14	27	87	
		2	14	19	33		
		2	15	12	27		
	中学年	3	9	19	28	51	
		4	13	10	23		
	高学年	5	14	12	26	57	
		6	16	15	31		
	合 計			94	101	195	195
	通常指導学級	低学年	1	14	17	31	54
2			11	12	23		
中学年		3	12	10	22	53	
		4	12	19	31		
高学年		5	12	13	25	58	
		6	17	16	33		
合 計			78	87	165	165	

(3) 研究の進め方

- 研究打合せ 5月22日(火)
 - ・ 共同研究者の紹介、研究計画の共通理解、今後の予定等
 - ・ 研究主題、研究仮説、研究内容、研究方法、指導プログラム開発・工夫等の検討
- 小学生対象 アンケート実施「係活動の実施状況等」 5月25日(金)
- 小学生対象 アンケート実施(事前調査)「係活動に関わる勤労観・職業観」の意識調査 5月30日(水)
- 開発・工夫した指導プログラム等に基づいて係活動を指導する。 5月30日(水)～7月12日(金)
- 小学生対象 アンケート実施(事後調査)「係活動に関わる勤労観・職業観」の意識調査 7月13日(金)
- アンケートの集計・処理作業、考察等 11月10日(土)、11月24日(土)、1月12日(土)
- まとめ 2月～3月

3. 研究の実際

[研究1] 研究主題に関する係活動の理論的・実践的な考察

(1) 係活動の教育課程上の位置づけ

係活動が教育課程に位置づけられたのは、昭和43年であり、当時、特別活動の一内容である児童活動「学級会活動」の中に「係の活動」として位置づけられていた。現在、特別活動の一内容である学級活動の内容において「[共通事項](1)学級や学校の生活づくり イ.学級内の組織づくりや仕事の分担処理」として係活動は位置づ

けられている。

(2) 係活動の教育的意義

小学校学習指導要領解説「特別活動編」において、係活動は上述「イ. 学級内の組織づくりや仕事の分担処理」の中で、「学級の生活を充実、向上させるために、必要とされる学級内の組織づくりや仕事の分担処理などを児童自身が見だし、協力していこうとする活動である。」として係活動の意義が示されている。

(3) 係活動の教育的機能

係活動の教育的機能として、主に次の内容が考えられる。

- 係の仕事の分担により、学級生活が向上するとともに、所属感や連帯感を高めることができる。
- みんなと仲よく協力しながら仕事を行うことにより、望ましい人間関係が培われる。
- 仕事を自主的に行う能力や最後までやり遂げようとする責任感が育つ。
- もっとみんなのためになる楽しい係を目指すことにより、創造性や主体性が育つ。
- 係の仕事を通して、児童自らの適性や能力に気付くことができる。
- 学級やみんなのために役立つ楽しさを味わい、勤労の大切さを感じることができる。

(4) 係活動の種類

低学年	小学校入門期の発達段階を考慮し、1人1役的な係、また、教師のお手伝いのような当番的要素を持った係からスタートする。2年生頃からは、自分たちで見つけた学級の仕事へ少しずつ発展させる。 でんきかかり、こくばんかかり、まどかかり、かさかかり、ほんかかり、くぼりかかり、いきものかかり、せっけんかかり、ボールかかり、おとしものかかり、みずやりかかり、かざりかかり、他
中学年	低学年までの経験を生かし、より主体的に取り組めるように工夫し、係の種類も整理統合し、係名も仕事の内容にふさわしい名を児童に考えさせる。 創意工夫の余地の少ない係、単純な仕事の係、楽しくない係などの見直しを行えるようにする。 図書係、新聞係、掲示係、保健係、運動係、園芸係、生き物係、ゲーム係、他
高学年	学級目標の達成や学級生活の向上につながり、自分も生かされ、みんなのために役に立つ、創造的な楽しい係の仕事を意識し、自主的、自治的、実践的に行えるようにする。 図書係、新聞係、飼育係、美化係、集会係、運動係、他

(5) 係活動の指導上の配慮事項

① 係活動の時間

係活動の常時活動は主に教育課程外の始業前、休憩時間、放課後等に行うが、活動報告・発表会等は教育課程内の学級活動の時間内で行うことが一般的であり望ましい。

② 係の人数

係の人数については、低学年の場合は1人1役的、学年が上がると1つの係は数名の児童が担当し、望ましい集団活動が展開できるようにする。

③ 係活動の指導のあり方

- 教育目標の下に、学級生活基盤の形成に機能できるようにする。
- 人間関係を深め、共に生きる力を育めるようにする。
- 学級生活向上やみんなのために働くことの大切さ、意義を理解し、自らの適性や将来設計・選択等、自己の生き方を考え、生かす能力を養えるキャリア教育の視点を入れた指導にする。
- 自他のよさを生かし、互いの個性を尊重しながら協力して活動しようとする自主的・実践的な態度を育成する。
- 各教科・道徳・総合的な学習の時間・外国語活動等との関連を有効に図る。
- 児童の自己評価・相互評価や指導者の評価を採り入れる。

(6) 係活動とキャリア教育との関連

① 係活動の観点からとらえたキャリア教育

2007年6月、教育基本法の理念を実現するため学校教育法の一部が改正された。義務教育については、その目標の中に「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養う。」ことが示された。

小学校においても「将来の進路を選択する能力を養う。」ことが目標に掲げられたことにより、小学校から中学

校、高等学校と進路指導はつながり、12年間を貫いた生き方の教育が成立した。

係活動を内容とする特別活動は、望ましい集団活動や体験活動を通して、一人一人の児童が自らの生き方の中で自己実現を図ることを目指し、社会的自立を重視した点でキャリア教育と方向性が一致する。係活動の実践は、勤労観の育成と深くつながり、職業観形成の最適な教育活動になると考えられる。

したがって、小学校の係活動においても、キャリア教育促進の一つとして勤労観・職業観を育む学習プログラムの枠組みに示された4領域・8能力である「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」に示された能力・態度を育成するため、従来の係活動を見直しながら、よりキャリア教育の視点、つまり将来の社会的自立・職業的自律を念頭に置きながら児童たちの成長や発達を促進する見方から係活動の指導プログラム等の開発・工夫を行わなければならない。

② 次は、キャリア教育の視点を踏まえた係活動指導の展開である。

○ みんなの役に立ち、自分も楽しい係を考えよう（第4学年 学級活動 1時間）

[指導のねらい]

- ・ 「学級生活の向上につながり、楽しく工夫のできる係を考えることができるようにする。」

[指導の展開]

	活動内容	指導上の留意事項
導 入	1. 係の仕事をしているときの気持ちを出し合おう。	○ 小グループで話し合った後、発表し、共通している内容から係活動の意義や役割等について気付くようにする。
展 開	2. 係活動の役割や責任も理解し、学級生活の向上につながり、みんなの役に立つ係を考えよう。 3. 係の仕事をする日時や約束ごとを決めよう。 4. 役割分担を決めよう。	○ 学級生活の向上を目指し、自分も生かせ、工夫もできる楽しい係を考えることができるようにする。 ○ みんなのために責任を持ち、進んで行える計画を立てる。 ○ 自分の興味・関心や適性が生かせる係を希望できるようにする。
終 末	5. 今日の話し合いの振り返りをしよう。 6. 先生の話	○ 今日の話し合いを振り返り、今後の係活動に生かすことができるようにする。 ○ 自分の良さを生かし、みんなのために活躍できる係の仕事、楽しく進んで行うことの大切さを理解させる。

③ 常時の係活動の取組み

係名	常時の活動	広報的な活動	学級活動
運動係	○ 用具の準備 ○ 整列、準備運動3 ○ 記録等のお手伝い ○ 用具の後片付け	○ 「ドッジボール名人へのインタビュー」 ○ 「スポーツテストのお知らせ」 ○ 「自分の好きなスポーツ調べ」	○ マラソン大会のメダル・賞状づくり（学級会） ○ 1年生と仲良く遊ぶ計画づくり（学級会）

(7) 研究主題に関する係活動と道徳指導との関連

① 道徳指導における係活動の扱い

道徳の時間、係活動の体験を踏まえて、児童が勤労や奉仕等の道徳的価値に気付き、その意味や大切さについて考えを深めることを通して、勤労観・職業観につなぐ時間として重視する。

② 勤労・奉仕に関わる道徳資料

勤労・奉仕に関わる道徳の資料を計画的・意図的に道徳の時間に取り上げる中で、係活動や当番活動の意義や役割、そこでの学び等についての指導を行う。

○ 本研究協力の重点指導学級では、6月初旬の「道徳の時間」、下記の道徳資料を参考にして1時間指導する。

表-1 道徳資料・内容項目

学 年	資 料 名	内 容 項 目
1 年	(25) おちばそうじ	4- (2) 勤労
2 年	(4) 本がかりさん がんばっているね	4- (2) 勤労
3 年	(18) 木の中にバットが見える	4- (2) 勤労・奉仕

	(33) 公園のそうじ	4－(2) 勤労・奉仕
4 年	(4) そうじのときに	4－(2) 勤労・奉仕
	(28) ネコの手ボランティア	4－(2) 勤労・奉仕
5 年	(10) サタデーグループ	4－(2) 勤労・奉仕
	(28) 父の仕事	4－(2) 勤労・奉仕
	(4) 緒方洪庵 (大阪府のお話)	4－(2) 勤労・奉仕
6 年	(7) 母の仕事	4－(2) 勤労・奉仕
	(31) あせをながした一日	4－(2) 勤労・奉仕
	(1) 青少年赤十字で学んだこと (大阪府のお話)	4－(2) 勤労・奉仕

[研究2] 小学校の「勤労観・職業観」の育成を図る係活動の指導プログラム等の開発・工夫

(1) 小学生の職業観・勤労観の内容については、平成14年11月に出された国立教育政策研究所生徒指導研究センターの「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」のなかに、「勤労観・職業観を育む指導プログラムの枠組み－職業的(進路)発達に関わる諸能力の育成の視点から－」(以下、通称である4領域8能力と略記する)として示されている。最近では、平成23年1月に提示された中央教育審議会の答申「今の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の中で、幼稚園から大学までの学校教育で育成したいキャリア教育に関する意欲・態度・能力について、「社会的・職業的自立、社会への円滑な移行に必要な力の要素」が整理して示され、勤労観・職業観は、主に価値観として、基礎的・汎用的能力等とは切り離して提示されている。

しかし、この答申で新たに重視している「基礎的・汎用的能力」については、児童生徒の発達段階との対応が明確に示されていない。また、小学校現場では、これまでキャリア教育の枠組みとして、長らく「4領域8能力の表」が使用されてきた経緯がある。これらの理由で、本研究では、指導プログラム等の開発と工夫に際しての背景の枠組みとして、勤労観・職業観を広く捉え、いわゆる「4領域8能力の表」を参考にする。

(2) 研究主題に関わる係活動の学習指導材や重点指導のポイント

指導内容は重要な独立変数を占める。係活動を楽しく、創造的な活動に高めることは、学級生活の向上につながる。また、人間関係が豊かに形成されるとともに、勤労観・職業観を育てることもできる。

そのための教師の係活動の学習指導材や重点指導ポイントは、児童の自主的、自治的活動を育てる働きかけを行うことである。そして、児童と一緒に目指す学級像をつくること、児童に任せる活動を明らかにしておくこと、また、必要な学習指導材等を整え、児童の活動を見守る指導姿勢を大切にすることである。さらに、係活動の目的・内容・方法等について事前指導等を行っておくことが肝要である。そこで、重点指導学級の具体的な重点指導事項については、「係活動を阻む原因帰属の分析」(中園 大三郎 1983年 兵庫教育大学大学院 修士論文)を参考にし、「教師の指導性」「児童の自主性」の内容に絞った。

その内容は次の通りである。

表-3 係活動の重点指導ポイント事項

	係活動 重点指導事項
主に教師の指導性に関わる内容	<input type="checkbox"/> 係活動の時間を確保する。(始業前、朝の会、業間、昼休み、放課後、他)
	<input type="checkbox"/> 係活動の月・週の予定表を用意する。
	<input type="checkbox"/> 係活動コーナーを設置し、係の作品やお知らせを掲示できるようにする。
	<input type="checkbox"/> 係活動に必要な用具をそろえる。(はさみ、のり、テープ、用紙、他)
	<input type="checkbox"/> 係活動の必要性・内容が理解できるように説明する。
	<input type="checkbox"/> 発達段階に合った係活動にする。(係の内容、名称、人数、他)
	<input type="checkbox"/> 係活動の仕事は、人に役立ち、将来に活かされることについて理解できるように説明する。
	<input type="checkbox"/> 係活動の発表機会を設ける。

	○ 係活動に必要な話し合いの時間を大切にする。
	○ 「道徳の時間」との関連をとり、働く事の意義をつかませ、勤労観・職業観の育成を図る。
	○ 教師も可能な限り、係の活動や話し合いに入る。
主に児童の自主性に関わる内容	○ 教科学習ではないことを理解させ、係名は自主的な活動が生まれるような楽しいネーミングを考案することができるようにする。
	○ 常に係活動の見直しができるようにする。(工夫しているか、協力できているか、みんなのために役立つ仕事になっているか、学級生活が豊かになっているか等)
	○ 自分達で工夫して、楽しく活動ができるようにする。
	○ 一人一人に役割があることを理解できるようにする。
	○ 話し合いによって、係活動の問題点等が解決できるようにする。
	○ 月・週の予定を立て、反省し、改善できるようにする。

○ 係活動の指導プログラムで用いた学習指導材の開発・工夫した内容は、次の通りである。

表-4 係活動の指導プログラムで用いた学習指導材の開発・工夫

- (1) 特別活動全体計画
- (2) 学級活動 年間指導計画(議題・題材名一覧)
- (3) 学級活動 1学期の指導計画
- (4) 係活動 月の予定表
- (5) 係活動 週の予定表
- (6) 係活動 振り返りカード(個人)
- (7) 学級活動指導案(係活動)
- (8) 係活動 指導ポイント表
- (9) 道徳との関連指導(道徳の時間での指導)



2年生 かかりのしごと

2ねん1くみ 係活動 週予定表

係名	ほしけん	係 期間	7月2日(月)~7月6日(金)
めあて	しごとをわすれずにする。		
いつ	なにをする	だれが	反省
日	時	時	
2	月	休み じかん	けんこうを とどける 6.32 A B C
3	火	二分休み	せんを けんこうを とどける A B C
4	水	休み じかん	けんこうを とどける A B C
5	木	休み じかん	けんこうを とどける A B C
6	金	休み じかん	けんこうを とどける A B C

「時節」の記入のしかた → 始業前、朝の会、休業時間、昼休み、放課後
「反省」 → A (がんばった) B (ふつう) C (もうすこしだった)

2年生 かかりのしごと「週の予定表」

月	第1学年			第2学年		
	課題	内容	教科・習熟等との関連	題材	内容	教科・習熟等との関連
4	○おどろきなしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(2) ア (2) カ (2) キ (2) ク	始業式 発着予定 給食 生活	○3年生になって ○学期の目標を決めよう ○1学期の振り返り ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	始業式 発着予定 生活
5	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) カ (1) キ (1) ク	道徳 遠足 生活	○楽しい遊ばし ○みんなで遊ぼう ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	道徳 遠足 生活
6	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(2) ア (2) カ (2) キ (2) ク	プール開き 保健 体育	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	プール開き 生活 体育
7	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(2) ア (2) カ (2) キ (2) ク	生活 道徳 始業式	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	道徳 始業式
9	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) カ (1) キ (1) ク	始業式 道徳 大掃除 運動会	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	始業式 道徳 大掃除 運動会
10	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) カ (1) キ (1) ク	道徳 道徳 国語 給食	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	道徳 道徳 給食 遠足
11	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) カ (1) キ (1) ク	道徳 生活	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	国語 生活
12	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) カ (1) キ (1) ク	保健 道徳 始業式	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	保健 道徳 始業式
1	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) カ (1) キ (1) ク	始業式 給食	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	始業式 保健
2	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) カ (1) キ (1) ク	生活 国語 道徳	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	生活 国語 道徳
3	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) カ (1) キ (1) ク	6年生を送る会、道徳、始業式	○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ ○おどろきのしやうごころ	(1) ア (1) ク (1) キ (1) エ	6年生を送る会、道徳、始業式

第1・2学年 学級活動 年間指導計画

実施月	学級会 (係活動)		係活動	集会活動	各教科、道徳、他領域等との関連
	(1) 学期の生活づくり (1学期 7時間予定)	(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 (1学期 7時間予定)			
4	○ 学期の目標を決めよう (1) ア ○ 係を決めよう (1) イ	○ 3年生になって (1) ア	(常時)	[7月]	第1学期始業式 「得意なことを発表しよう」 1年生を迎える会 発着予定
5	○ 係の仕事を楽しもう (1) イ	○ みんなが楽しく遊ぼう (1) ウ ○ 掃除や給食当番の仕方 (1) エ ○ 道徳の遊びを決めよう (1) カ	放課後	[例]	道徳 (仕例) (1) エ 道徳 (1) ウ
6	○ 学期の振り返り (1) ア ○ 忘れ物ゼロの計画を立てよう (1) ア ○ 雨の日の過ごし方を決めよう (1) ウ	○ プールの使い方を決めよう (1) ア ○ 忘れ物ゼロの計画を立てよう (1) ア ○ 雨の日の過ごし方を決めよう (1) ウ	(1) カ		プール開き (1) カ 体育 (1) カ
7	○ 係の発表をしよう (1) イ ○ 得意なことを発表しよう (1) ウ	○ 楽しい夏休みの計画を立てよう (1) カ			大掃除 (1) エ 道徳 (健康生活) (1) カ 第1学期終業式 (1) ア

第3学年 学級活動 1学期の指導計画

[研究3] 研究主題に関する調査研究1

(1) 目的

小学生対象に係活動の実施状況を調査し、係活動の現状を把握するとともに、キャリア教育の視点から考察する。

(2) 方法

- ① 研究協力者 先に記述した大阪市立8小学校13学級の内、3学年1学級28名を除く児童332名
- ② 調査日 平成24年5月25日(金)
- ③ 質問紙

設問を「学級の中で、いろいろな係の仕事をしています。この係の仕事について、あなたの気持ちを教えてください。」とし、所属係名・人数・仕事回数等について回答を求めた。

(3) 結果

① 小学校における係活動の実施状況

表-5 小学校における係活動の実施状況

大阪市内 8小学校 1~6年生 332名 (無回答 2名)

学年・組	人数	設置係の状況			
		係名称	係数	係人数	係の平均人数
低学年 1年2学級 2年3学級	137	あそび、ゲーム	5	18	3.43
		としよ	5	18	
		くばり、ゆうびん	4	20	
		たいいく	4	15	
					3.21

			こくぼん	4	10		
			せいとん、せいり	3	11		
			ほけん	3	10		
			けいじ、はる	2	7		
			生きもの	2	6		
			まど	2	5		
			おとしもの	1	5		
			がっきゅう	1	3		
			しんぶん	1	3		
			うた	1	2		
			せいれつ	1	2		
			でんき	1	2		
中学年	3年1学級 4年2学級	72	集会、バースデー	3	11	3.13	2.73
			図書	3	10		
			生き物	3	7		
			配り	2	8		
			新聞	2	7		
			体育	2	7		
			掲示	2	7		
			保健	2	4		
			学級会	1	4		
			お手伝い	1	3		
			号令	1	2		
			学習	1	2		
高学年	5年2学級 6年2学級	121	遊び、Happy play (集会)	5	22	3.67	3.29
			図書、Book World	4	12		
			配り	3	17		
			スポーツ、体育	3	12		
			給食、カツカレー	3	11		
			掲示、飾り	3	11		
			保健	3	6		
			音楽、ミュージック	2	4		
			World P.E	1	5		
			生き物	1	1		
			サポート	1	5		
			忘れ物	1	3		
			Beautiful Decoration	1	4		
			季節	1	4		
レッツ Study	1	4					

(考 察)

○ 係の平均人数については、全学年とも一つの係人数は3~4名程度となっており、少集団としてまとまって活動できやすい人数である。低学年は、1人一役的な係が多くなると予想していたところ、一つの係人数は3~4名となっており、係活動を通して仲間づくりの育成を考える低学年の学級担任の姿勢がうかがわれる。このことは、キャリア教育で必要な諸能力の育成にもつながることである。

○ 係の名称は、今次の学習指導要領で取り上げられている外国語活動、食教育の重視を踏まえた名称が

けられており、このことは、キャリア教育の職業理解能力や選択能力につながるものと考えられる。

[研究4] 研究主題に関する調査研究2

(1) 目的

○ 研究2で開発・工夫した係活動の指導プログラム等を用いた指導を行い、その前後に実施する児童対象の意識調査によって、キャリア教育で取り上げられている諸能力の変容、及び指導プログラム等の有効性を明らかにする。

(2) 方法

① 研究は「勤労観・職業観」育成のキャリア教育の視点から取り組むため、重点指導学級の担任とは研究1・2の内容と併せて次の内容についても事前に共通理解を図った。

- 子どもの個性や可能性を広げていくように努める。
- 係の仕事の意義や役割を理解させた上で、積極的に必要な行動のとれる力を育てる。
- コミュニケーション能力や人間関係能力の育成を推進していく。
- 考え方や行動の仕方が違う子どもたちと活動することを通して、生き方やルール等を学ぶことに気づかせる。

② 研究仮説の実証方法

重点指導学級と通常指導学級における係活動の指導前後の意識調査により、キャリア教育で取り上げられている諸能力の変容を明らかにする。重点指導学級では開発・工夫した係活動の指導プログラム等を用いた指導を行い、その指導プログラム等の有効性も併せて究明する。

ア. 調査対象

研究1・2で記述の大阪市内の8小学校13学級360名の児童を対象に、係活動に関する質問紙調査を指導前後に実施した。

イ. 調査手続き

児童対象「勤労観・職業観」(キャリア教育の能力領域)に関わる意識や態度の変容を明らかにするため質問紙法による事前調査を平成24年5月30日に、同年7月12日に事後調査を実施した。係活動の指導や調査は共同研究者である学級担任が行った。

③ 調査内容

児童対象「勤労観・職業観」(キャリア教育の能力領域)に関わる意識や態度の変容を明らかにするため質問紙は8問で構成しており、その質問項目は、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが示したキャリア教育で育む次の「4領域8能力」評価の観点に合わせた。

表-6 係活動に関する勤労観・職業観アンケートの項目

質問番号	質問項目	勤労観・職業観を育むキャリア教育の能力領域	
1	あなたは、自分や友達の良いところに気づき、認めあい助けあうことができますか。	①自他の理解能力	1. 人間関係形成能力
5	自分の意見や気持ちを分かりやすく、みんなに話すことができますか。	②コミュニケーション能力	
3	仕事でわからないことは、たずねたり、図かんなどで調べたりすることができますか。	③情報収集・探索能力	2. 情報活用能力
7	係の仕事を進んで行い、働くことの大切が分かりますか。	④職業理解能力	
8	友達との役割や役割の分担の必要さが分かっていますか。	⑤役割把握・認識能力	3. 将来設計能力
4	係の計画づくりの必要性に気づき、仕事のしかたが分かっていますか。	⑥計画実行能力	
6	自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで係の仕事をすることができますか。	⑦選択能力	4. 意思決定能力

2	自分の係の仕事に責任を感じ、最後までやりとおすことができますか。	⑧課題解決能力	
---	----------------------------------	---------	--

④ 分析方法

児童対象「勤労観・職業観」(キャリア教育の能力領域)に関わる意識や態度の変容を明らかにするための質問紙法による調査の質問項目の得点は、「とてもそう思う」5点、「まあそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「まったく思わない」1点として算出した。本研究では、開発したプログラムの妥当性を全体的に明らかにする。そのため、最も知りたいことは、2(実験群、統制群)×2(事前・事後)の交互作用であるので、まず、この点から質問項目を統計処理した。あと、必要に応じて、2(実験群、統制群)×3(低学年、中学年、高学年)×2(事前、事後)の3要因分散分析を行った。ここでの実験群は重点指導学級を、統制群は通常指導学級を表す。

⑤ 調査期間 平成24年5月28日(月)～同年7月10日(火)

⑥ 結果及び考察 (係活動における「勤労観・職業観」育成 -キャリア教育の能力育成-)

指導前の全体の平均値を図-1に、指導後の全体の平均値を図-2に示した。これらの図から次のことが読み取れる。

- 平均値から見ると指導前には「統制群」の方が全体的に高い数値を示している。
- 指導前は統制群より低い平均値であった実験群の平均値は、指導後、全体的に向上しているように見受けられる。
- 開発・工夫した係活動の指導プログラム等を用いて指導に当たった実験群では、「計画実行能力」以外の平均値は統制群に比較するとすべて上回った。
- キャリア教育が挙げる諸能力の内、係活動で身に付く能力の観点から見ると「計画実行能力」「課題解決能力」「役割把握・認識能力」は高い平均値を示し、「情報収集・探索能力」はやや低い平均値を示すことが分かった。

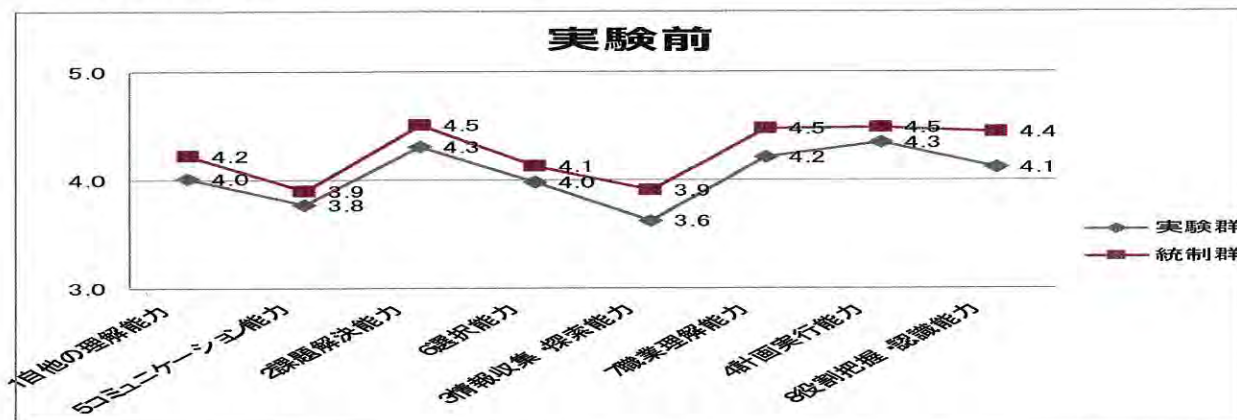


図-1 「勤労観・職業観」(キャリア教育の能力領域)に関わる指導前の児童の意識

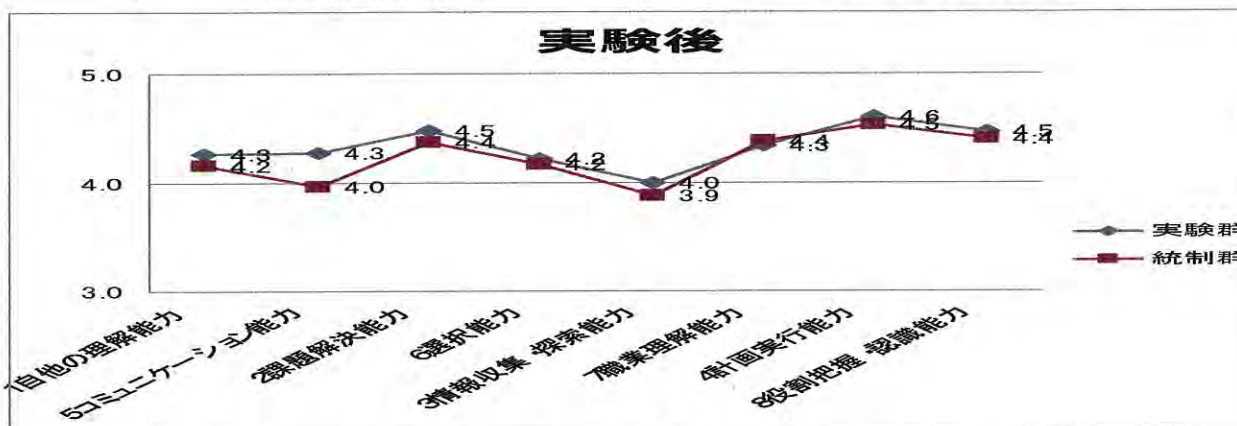


図-2 「勤労観・職業観」(キャリア教育の能力領域)に関わる指導後の児童の意識

次に、能力ごとの得点の変化について述べる。

図-3は、「人間関係形成能力」得点（自他の理解能力とコミュニケーション能力得点の合計）の平均値について、指導法（実験群・統制群）および学年（低・中・高学年）ごとに、時期（事前・事後）の変化を示したものである。3要因分散分析の結果、次のことが明らかになった。

- 学年によって差がある（学年の主効果： $F(2, 313)=35.37, p<.01$ ）。図より、低学年のほうが、高学年より人間関係形成能力を高く自己評価している。（コメント：分散分析の下位分析の結果が無いので、見た目でしか結果が述べられません。学術的な面からは下位分析の結果がほしいです。以下、同様です。また、分散分析表に誤差分散が示されていないので、F値の分母の自由度がわかりませんでした。）
- 指導方法によって差が出ている（ $F(2, 313)=4.38, p<.05$ ）。図より実験群の方が数値は上昇している。このことから、係活動での少集団活動は、望ましい人間形成能力の向上につながることを実証ができたのではないかと考えられる。

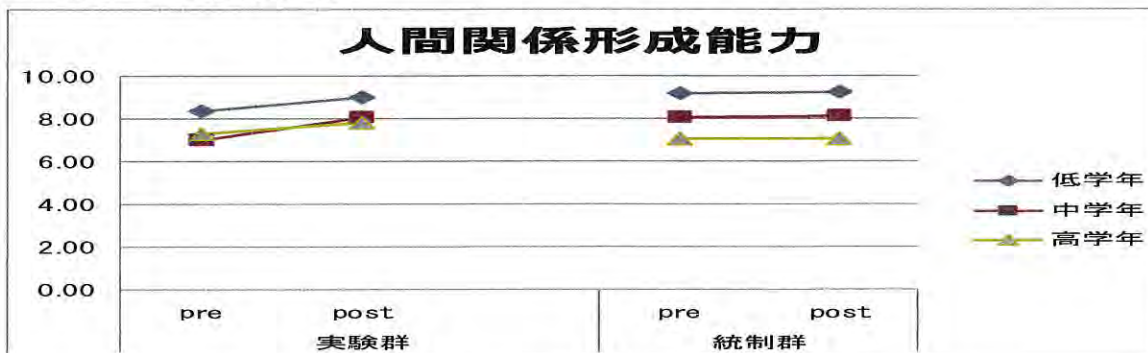


図-3 人間関係形成能力

図-4は、情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力の合計）の平均値を示したものである。分散分析の結果、次のことが明らかになった。

- 学年（ $F(2, 312)=31.13, p<.01$ ）、および指導方法（ $F(1, 312)=7.98, p<.05$ ）に差がある。
- 時期と指導方法（ $F(2, 312)=4.47, p<.05$ ）、時期と指導方法と学年（ $F(2, 312)=5.52, p<.01$ ）、学年と指導方法（ $F(2, 312)=9.71, p<.01$ ）に交互作用がある。
- 中学年、高学年では効果が上がっているが、低学年では実験群の数値が低下しているように見受けられる。

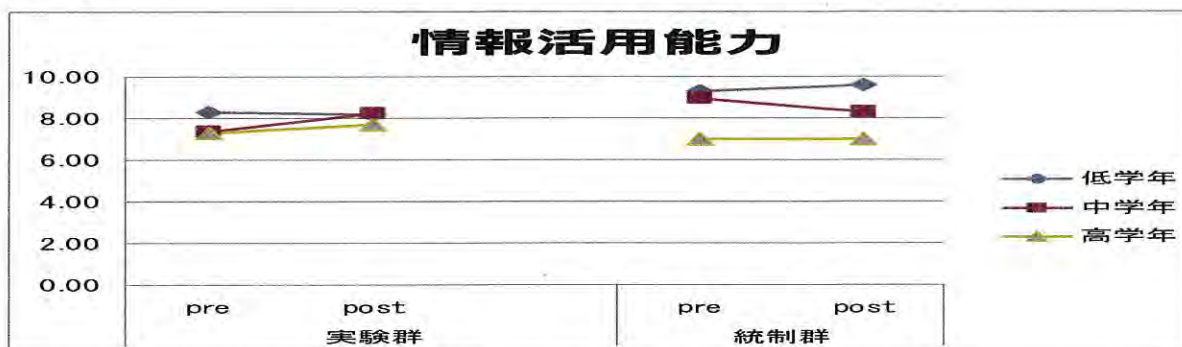


図-4 情報活用能力

図-5は、将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力の合計）の平均値を示したものである。分散分析の結果、次のことが明らかになった。

- 時期（ $F(2, 312)=14.10, p<.01$ ）と学年（ $F(2, 312)=10.22, p<.01$ ）で差がある。
- 時期と学年（ $F(2, 312)=10.71, p<.01$ ）、時期と指導方法（ $F(1, 312)=11.80, p<.01$ ）、時期と学年と指導方法（ $F(2, 312)=4.65, p<.05$ ）の間に交互作用がある。
- 図-5から、低学年、中学年では実験群に効果があると思われるが、高学年では数値が低下している。
- 最も効果が上がっているのは、中学年の実験群であるようにみえる。

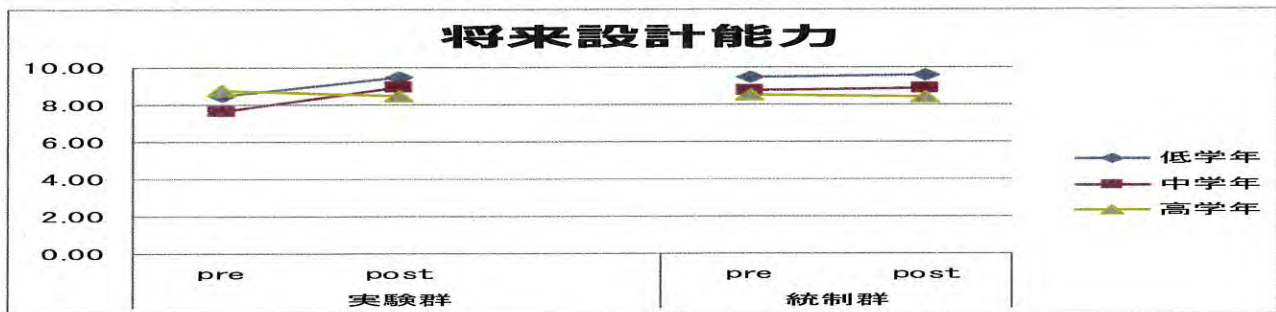


図-5 将来設計能力

図-6は、意思決定能力（選択能力、課題解決能力の合計）の平均値を示したものである。分散分析の結果、次のことが明らかになった。

- 時期 (F(2, 313)=3.88, p<.05)、および学年 (F(2, 313)=26.40, p<.01) によって差がある。
- 時期と指導方法 (F(1, 313)=6.02, p<.05)、時期と学年と指導方法 (F(2, 313)=4.99, p<.05)、および学年と指導方法 (F(2, ?)=3.63, p<.05) の交互作用が有意であった。
- 図-6から、低学年、中学年では実験の効果が上がっていると思われる。このことから、低学年・中学年においては、進んで仕事を行っていることが推察できる。

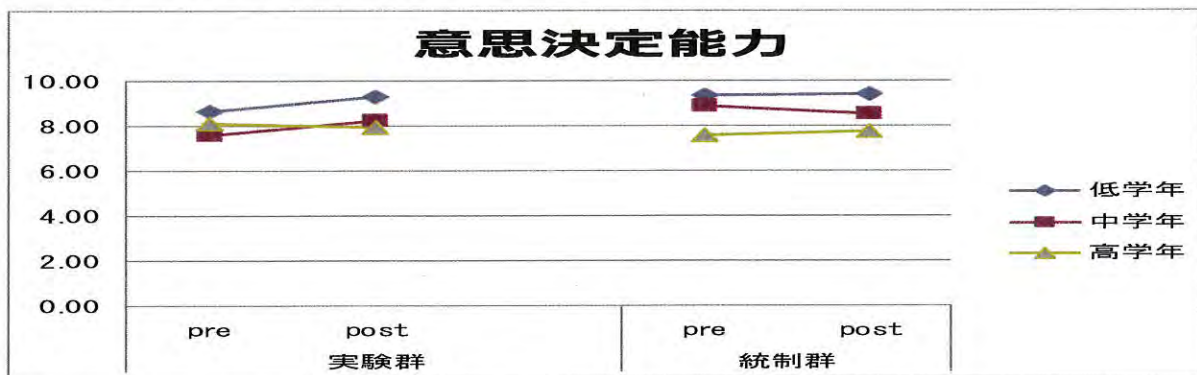


図-6 意思決定能力



6年生 「係の打合せ」

2ねん1くみ 係活動 係り進りカード 7月6日

係名	とじ	名前	36
1. 係の仕事をして、みんなのため役立ったこと、喜んでもらったことはどんなことですか			
みんなのほんごを、おてがえはりました。			
2. 係の仕事でくふうしたいことは、どんなことですか			
とじがかりのみんなで赤いテープをはるのをくふうしました。			
3. きょうの係の仕事をふりかえて			
<input type="checkbox"/> うまくできた。 <input type="checkbox"/> うまくいかなかったが、がんばった。 <input type="checkbox"/> うまくできなかった。			

2年生 係のふりかえりカード

[研究5] 研究主題に関する調査研究3

(1) 目的

- 研究2で取り上げた係活動の重点指導事項のうち、どの実践が児童の勤労観・職業観に影響を及ぼしたかを明らかにする。

(2) 方法

影響を与え、「係活動に必要な物」の「有用性」が同じく勤労観・職業観に正の影響を与えたことが示された。ただし、「内容や必要性の話」の「楽しさ」、「時間の設定」の「楽しさ」および「有用性」の感覚は、児童の勤労観・職業観に負の影響を与えていることも示された。このことから、この2つの学級活動については、見直す必要があるかもしれない。そのためには、授業がどのようになされたのか、児童の反応はどうだったのか、といったことについての再吟味も必要であろう。今後の検討課題と思われる。

以上の結果から、発表の場の設定、係活動の意義の話、係活動に必要な物といった諸活動は、最終的な児童の勤労観・職業観に対して効果があったことが示されたと考えられる。

本研究の課題としては、調査協力・分析対象となった児童数が少ないことがあげられる。より多くのデータがあれば、本研究では得られなかった影響関係が発見される可能性もあると思われる。

4. 全体のまとめ

研究1 係活動の理論的・実践的な考察

- 係活動の理論的・実践的な事項について、キャリア教育の視点からも考察することができ、共同研究者と共通理解を図ることができた。

研究2 「勤労観・職業観」を育む係活動の指導プログラム等の開発・工夫

- 勤労観・職業観を育む指導プログラム・学習指導材の開発・工夫、そして重点指導ポイント等について提起し、研究や実践に資することができた。

研究3 係活動の実施状況調査

- 係の名称、係数、係人数等については、学年発達段階に即していると考えられる。特筆すべきことは、係の名称に、今次の学習指導要領で取り上げられている外国語活動、食教育を踏まえた名称が付けられている。このことは、活動を通してキャリア教育の職業理解能力や選択能力につながるものと考えられる。

研究4 児童の「勤労観・職業観」変容に関わる意識調査、開発・工夫した係活動の指導プログラム等の有効性

- 指導前の重点指導学級と通常指導学級の「勤労観・職業観を育むキャリア教育の能力」を比較すると、全体的に通常指導学級の方が平均点は高かったが、開発・工夫した係活動指導プログラム等を用いて指導した重点指導学級の指導後の平均値は殆ど高くなった。つまり、係活動は、キャリア教育が上げている児童たちの「勤労観・職業観」の諸能力を向上させことに適した教育活動であることが究明できた。また、児童たちの「勤労観・職業観」の諸能力の向上により、指導に用いた本研究の係活動指導プログラム等の開発・工夫の有効性を検証することができた。

- 重点指導学級において、係活動指導後、有意な差が出て、指導効果がよく表れたのは低・中学年であった。

研究5 係活動の重点指導事項が児童の勤労観・職業観に及ぼす影響

- 「発表の場の設定」と「係活動の意義の話」で「楽しさ」を感じたり、「係活動に必要な物」で「有用性」を感じたりすることが、児童の勤労観・職業観を高めるのではないかということが示された。ただし、「内容や必要性の話」の「楽しさ」、「時間の設定」の「楽しさ」や「有用性」は、逆に、児童の勤労観・職業観を低めているという結果も得られた。この点については、今後の検討課題と思われる。

[引用文献]

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 平成20年 東洋館出版社

国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「調査研究報告書」 2002年11月

国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」
平成14年11月

中園大三郎 「小学校の係活動に関する研究」 学位論文 1983年 兵庫教育大学大学院

① 研究協力者

先に記述した重点指導学級のうち、3小学校の4、5、6年生児童、各1学級、計3学級、82名（男子44名、女子38名）。分析の対象となったのは、欠席等で欠落データを含む者を除く75名（男子40名、女子36名）であった。

② 調査期間

平成24年7月末日

③ 質問紙

A. 研究2で取り上げた係活動の重点指導事項ごとに、質問項目「①たのしい ②したしみやすい ③じぶんにやくだつ ④ふくざつ ⑤じゅうじつしている ⑥クラスにやくだつ ⑦くらい ⑧やさしい ⑨にんげんをおおきくする ⑩ひつようである」を設け、それぞれについて、5件法で答える方法をとった。選択肢は「とても、少し、どちらともいえない、少し、とても」であった。

B. 表-6に示した係活動に関する勤労観・職業観アンケート

④ 調査手続

上記の2つの質問紙ともに、対象学級において、学級担任によって実施した。質問紙Aについては、それぞれの重点指導事項の実践が行われる度に事後アンケートとして実施した。質問紙Bについては、すべての実践プログラム（学級における諸活動）の実施前と実施後に行われた。

(3) 結果及び考察

勤労観・職業観についてのアンケートによる児童の自己評定点を目的変数、学級における係活動の重点指導事項10の活動についての、児童の振り返り評定点を予測変数として重回帰分析を行った。なお、活動への振り返りの評定は、10の重点指導項目の諸活動から構成し、先行研究に倣って「楽しさ」「やさしさ」「有用性」という3つの得点に集約した。そして、学級の諸活動に対するこの3種の得点、それぞれについて別々に重回帰分析を行った。

まず、職業観・勤労観アンケートの合計得点について、各児童の諸活動の事後の得点と事前の得点の差を算出し、職業観・勤労観の変化得点とした。変化得点の平均値は1.14、標準偏差は5.60であった。この変化得点を目的変数として、諸活動における「楽しさ」得点を予測変数とする重回帰分析を行った。強制投入法による重回帰分析の結果は、有意な重相関係数が得られず ($R^2=.141$, $F(10, 65)=1.06$, n.s.)、偏回帰係数もすべて有意でなかった。同様に、「優しさ」得点 ($R^2=.081$, $F(10, 65)=0.57$, n.s.)、「有意性」得点 ($R^2=.182$, $F(10, 65)=1.44$, n.s.) を目的変数とした場合も、有意な重相関係数は得られなかった。

以上より、学級における「係活動」の諸活動が児童の勤労観・職業観の変化に及ぼす影響については確認できなかった。

次に、職業観・勤労観アンケートの事後の合計得点（平均値32.46、標準偏差5.23）を目的変数とし、諸活動における「楽しさ」得点、「優しさ」得点、「有用性」得点、それぞれを予測変数とする重回帰分析を、それぞれ独立に行った。その結果、すべて、重回帰係数は有意であった。つまり、説明率が高く意味のある分析結果であるといえる。「楽しさ」得点： $R^2=.406$, ($F(10, 65)=4.44$, $p<.01$)、「やさしさ」得点： $R^2=.240$, ($F(10, 65)=2.04$, $p<.05$)、「有用性」得点： $R^2=.312$, ($F(10, 65)=2.95$, $p<.01$)。

それぞれの重回帰分析における標準偏回帰係数 (β) の値は次の通りであった。t検定の結果、5%水準で有意なものにアスタリスクを付した。正の値は、正の影響、負の値は、負の影響が見られることを示す。

表-17 諸活動の「楽しさ」「優しさ」「有用性」が勤労観・職業観に与える影響を分析するための重回帰分析の結果

	話し合い学級活動	週予定表	月予定表	道徳の学習	内容や必要性的な話	ふりかえりカード	発表の場の設定	時間の設定	係活動の意義の話	係活動に必要な物
楽しさ	.247	.079	-.057	-.080	-.461*	.194	.400*	-.323*	.386*	.193
やさしさ	.164	.034	-.011	-.023	-.189	.147	.234	-.089	.206	.194
有用性	.237	.217	.046	.234	-.224	.015	.165	-.394*	.066	.300*

表17より、「発表の場の設定」と「係活動の意義の話」の「楽しさ」が児童生徒の勤労観・職業観得点に正の